

2023 年度 第 2 回 教育課程連携協議会 議事要旨

- 開催日時：2024 年 3 月 14 日（木）15 時 00 分～15 時 55 分
- 場 所：オンラインビデオ会議システムによる
- 出席者：山田学部長、山内理学療法学科長、辛島作業療法学科長
滋賀県健康医療福祉部 角野理事（委任）、滋賀県医師会 越智会長（委任）
滋賀県理学療法士会 平岩会長、滋賀県作業療法士会 木岡会長
東近江市地域包括支援センター 河島センター長
マキノ病院リハビリテーション科 杉原科長
市立長浜病院リハビリテーション技術科 西村主幹（委任）
滋賀県立リハビリテーションセンター 乙川主任主査

- 陪席者：山川学長、岩崎センター長代理
丸山学生支援グループ長、吉田総務グループ係長

- 欠 席：山本副理事長兼学長補佐

1. 議 事

各学科の報告に先立って、事務センターより開学から次年度開講時までの学生数や志願者数の推移について概要の説明が行われた。

（1）報告事項

① 2023 年度 教育活動実施状況 報告（各学科長より）

理学療法学科長 山内より以下のとおり報告が行われた。

基礎医学、解剖学、生理学といった科目について理解ができない学生が多く、成績上位と下位の学生にかなりの差がある。

高校在籍時に生物の授業を受けずに入学してくる学生もあり、人間の基本的な構造や機能を理解するのに苦労している。

上記の対策としてチューター制度の強化を検討している。

退学者については、全国的に医療関係の大学で 10%、専門学校では 20%弱程度の退学

率となっており、他の養成校でも退学抑止に苦勞している。退学者の傾向として次が上げられる。

- 1) 基礎医学系の学習についていけず、学習をあきらめる
- 2) 学校に馴染めず不登校となり、連絡がつかないまま退学に至る
- 3) 家庭の経済的な理由による

1)、2) についてはチューターや担任によるフォロー体制の見直し及び強化を図り、3) については5年目在学時における学費の軽減など対策を講じているところである。

国家試験は39名が受験し、自己採点の結果、6～7名が不合格となるのではないかと見込んでいる。

就職状況は39名の卒業予定者のうち、5名が未定となっており、内定者34名のうち1名が一般企業、1名はアスレチックトレーナーを目指すこととなっている。

他分野への就職ということも専門職大学としての役割を果たしていると考ええる。

作業療法学科長 辛島より以下のとおり報告が行われた。

1年生 見学実習Ⅰが終了し、体調不良のため再実習となった1名を除き、実習報告を終えることが出来た。

1名が1科目について単位を取得することができなかった。

2年生 1名が試験の結果、1科目を落としたが特別措置対象となっているため、全員が単位を取得する見込である。

3年生 総合臨床実習Ⅰを終え、実習前後にOSCEを行った結果、実習前と実習後で明確な成長が見られた。合理的配慮対象の学生1名も実習に臨んだが、実習指導者のご助力により無事、実習を終えることができた。

残念ながら2名が精神不調で途中実習中止となり、学内で指導などを行っている。

4年生 就職状況は7名中3名が県内、3名が県外に作業療法士として就職内定。1名は一般企業へ就職活動中である。

国家試験は7名が受験し、自己採点の結果1名が不合格見込み、1名がボーダーラインぎりぎりである。

退学者について、9名の学生が退学となっており、うち5名については退学する前に一度、休学を促し、休学中も担任教員と密に連絡を取りながら将来について検討した結果の退学となっている。

河島センター長より)

作業療法学科の退学者うち4名は休学をせず、退学となったということであるが、その4名についても退学前に話し合いなどは行われているのか。

辛島作業療法学科長より)

4名のうち2名については退学前に担任教員と話し合いが行われている。1名については保護者と学生間でも情報共有ができておらず、対応ができないまま退学となった。1名については、作業療法に対する熱意が無くなっており、普段から教員と面談を重ねていたがそれを汲み取ることができていなかった。このことについては、反省点として今後の対応策を検討していきたい。

平岩会長より)

学生募集について大変苦勞されている、他大学の募集状況も踏まえ、広報活動を行っていただきたい。

以前より基礎ができていない学生がいるとの話を聞いている。学生の能力レベル毎に応じたカリキュラム作りも必要ではないかと考える。

山田学部長より)

他大学の情報については、大阪の行岡医療大学や藍野大学においても定員割れの状況となっており、どこの大学でも厳しい状況である。

退学する学生の最大の退学理由は身体に興味を持てないことだと思う。人間の身体構造や機能にどのようにすれば興味を持ってもらえるのかが喫緊の対策だと考える。

山内理学療法学科長より)

先ほども申し上げたが、成績上位と下位の学生の学習レベルに大きな差が出ている。その差をどう埋めていくのかを次年度に向けて検討中である。現在出ている対策案として、

クラス分けにおいて成績状況を鑑みた編成を行い、クラスレベルに合わせた授業方法の実施や、チューター制度、担任のフォロー体制の強化などが案として出ている。

また、突然大学に登校しなくなる学生には、学生生活の充実や理学療法学の面白さをどのように伝えていくのかも検討課題である。

② 次年度の教育課程連携協議会の構成について

事務センターより次年度の教育課程連携協議会の構成員については現在の構成員に加え、言語聴覚療法学科を開設するため、言語聴覚療法学科長就任予定者の種村教授、滋賀県言語聴覚療法士会 佐敷会長の2名を加える予定であるとの報告が行われた。

③ 八日市キャンパスの竣工について

事務センターより次年度4月より八日市キャンパスが開校し、4月4日（木）13時より同キャンパスにおいて竣工式を開催する。本会協議員がご所属されている病院施設等にもご案内を送付させていただいているので、ご都合が合えば、新キャンパスをご覧いただきたいとの報告が行われた。

（2）各委員からの意見・報告など

平岩会長より）

人口減少により高校生も減ってきており、定員充足はますます厳しい状況となっている。そのような状況でもリハビリテーションに少しでも興味を持ってもらえるような取り組みの実施を期待している。

先日、学位記授与式に参列させていただき、初めて八日市キャンパスに寄せさせていただいたが、便利な立地であると感じた。全学が八日市市街に移転することが最良であると考えているが、とりあえずは新しくできた新キャンパスも活用し、募集に繋げていってほしい。

木岡会長より）

せっかく作業療法士を目指す大学に入学したものの、作業療法についてあまり理解できず、モチベーションが上がらない学生もいる。

作業療法士会としてはそのような学生と授業以外のところで係りをもって、学生のモチベーションアップにつながる活動を大学と連携してやっていけたらと考えている。

河島センター長より)

生物や身体についての感心が非常に重要であるとのことであるが、対人援助への感心もリハ職を目指すうえで重要であると考えます。是非、そのことも踏まえ、学習へのモチベーションアップに繋げていただきたいと思います。

地域におけるリハ職の需要はとて多くなっている。作業療法学科が奥永源寺プロジェクトを実施されており、地域との輪を広げるチャンスだと思うので、活動内容の積極的な情報発信をお願いしたい。

杉原科長より)

滋賀県作業療法士会が主催となり、2/1、2/9に高島市内の中学校において作業療法についての啓発活動を行った。中学生は非常に熱心に話を聞いていた。このように作業療法の裾野を広げる活動を継続していきたい。貴学とも連携してより充実した啓発活動を実施していければと思う。

乙川主任主査より)

学校以外の生活習慣も気になっており、友人との関わり、アルバイトやサークル活動といった学校外での活動が充実することにより学生生活全体が楽しいものになり、そのことが退学者抑制につながるのではないかと思います。

先般、商業施設のイオンにて開催した県民参画イベントにおいて学生にも参加いただき、充実したものとなった。今後も一緒に各種イベントなどを盛り上げていきたい。

3/20の祝日にはボッチャ大会を開催し、市民やリハ職などが交流できる機会になればと考えている。

最後に山川学長及び山田学部長より挨拶が行われ、本会は終了した。

以上